

年頭にあたってのごあいさつ



日本アイ・ビー・エム健康保険組合
理事長 小玉 道雄

被保険者ならびにご家族のみなさま、そして事業主のみなさまには日頃より日本アイ・ビー・エム健康保険組合の事業運営につきまして多大なるご理解とご協力を賜り、心より御礼を申し上げます。

さて、みなさまご承知のとおり、高齢社会の進行や医療技術の進歩、高額薬剤の保険適用等により、健保組合が負担する医療費は増大を続けています。全国の健保組合の平均では、この10年間で被保険者1人当たりの年間保険料負担は約10万円も増加しています。また、国民医療費は2015年度で42・3兆円となり、年を追うごとに増え続けています。健康保険組合連合会の推計では、団塊の世代のすべてが後期高齢者となる7年後には57・8兆

円にまで跳ね上がると予測されています。増え続ける医療費を誰がどのような形で負担していくか、国民全体でよりよい方を考えていく必要があります。日本は皆保険制度のもと、病気になったときはフリーアクセスで医療を受けることができる恵まれた国ですが、この制度を維持するためには、医療へのコスト意識の強化も求められています。2018年度は診療報酬改定が予定されており、高額薬剤などの薬価の適正化、将来を見据えた医療の価値のあり方について議論が深まることと期待されます。

一方、2018年度は、第3期特定健診・特定保健指導実施計画と第2期データヘルス計画が同時にスタートする、健保組合にとって非常に重要な年

となります。特定健診・特定保健指導は、実施率に応じた後期高齢者支援金の加算・減算が拡大され、データヘルス計画は、3年間に及ぶ試行期間を経て本格稼働の時期となります。当健保組合といたしましては、新たな年に新たな計画のもと、医療費適正化と効果的な健康づくり事業に取り組んでまいりますので、みなさまにおかれましても、ジェネリック医薬品の利用等により医療費の適正化にご協力いただくとともに、当健保組合の事業をご活用いただき、ご家族ともに健やかな一年をお過ごしいただければと存じます。

最後になりましたが、本年がみなさまにとって幸多き一年となりますようお願い申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。